三日間天幕暮し

三池から七六名が参加

三池からの大会参加者は七十六名。前日八日午前七時五十分に先発隊はニュースカーとトラックで設営道具を積んで出発。目的地の長崎市松山町競輪場に午後三時到着した。直ちにキャンプ設営にかかり五張を設営し、夕食の準備に忙殺される。

本隊は午後五時五十八分浦上駅に到着、出迎えた先発隊はキャンプに案内した。

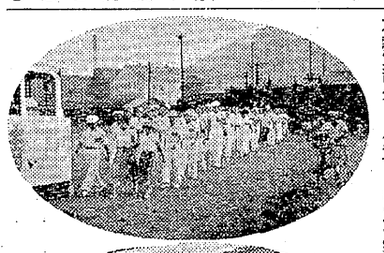
同夜は三鉱労組平和係参加者の前夜祭を行い、十一時に初の長崎の地で第一夜の夢を結んだ。

翌九日、六時起床、朝礼、労働歌合唱の後朝食、午前九時からの平和式典参加のため平和公園に参集した。この後原爆投下時刻の午前十一時二分に一分間の黙祷をささげキャンプ地に引上げた。午後は被爆者を囲む座談会に全員出席した。

夜は午後七時から競輪場で開催された歓迎国民大会を傍聴後十一時に就寝。なおこの日会員が寄せ書きをしてソ連のボーレス氏に贈った。

十日六時起床、朝礼、労働歌合唱朝食の後、午前八時から九炭労浦本鉱業部長より第一日目の本会議の報告を聞く、午前九時より浦上天主堂、如己堂、国際文化会館、崇福寺、グラバー邸を見学する。夜は三菱電機の組合員と懇談会を行った。

最終日の十一日は午前中階層別懇談会に出席、午後はキャンプをたたみ帰山準備、先発隊は午後二時半、本隊は午後四時七分の汽車で大牟田へ向う。三日間の日程をつつがなく終え、胸中に平和への心を燃しつづけながら午後九時四十分に大牟田に到着した。



(1)浦上駅についた三鉱のオブザーバー団　(2)キャンプ地（長崎競輪場）を出発するオブザーバー団
(3)傍聴するオブザーバー団

三度原爆許すまじ

六分科会で対策をねる

大会三日目の十日は午前九時から参加外国代表、国内代表約二千人が長崎市内の六分会場に分れて原水爆禁止と被爆者救援のためのテーマでそれぞれ分科会を開いた。各会場とも満員で真剣な意見の発表の中に〝三度原爆を許すまじ〟の誓いを強めた。

▼第一分科会（長崎県高体育館）は「原水爆禁止と軍備縮少について」が主題。議長団には中国研究家平野義太郎氏ら四氏が選出された。世界各国で原水爆戦争の準備反対の署名運動が起り七億近い署名を獲得したから今後これを軍縮要求の方向へ持つて行かねばならぬ。そのためには原水爆禁止を含む全般的な軍縮協定の成立、日本を原水爆戦争の拠点にしない。友好親善や国際連合の強化、世界的な規模で原水爆禁止運動を発展させるための努力が必要などを結論この主旨を全世界に呼びかけることを決めた。

▼第二分科会（長崎県高講堂）は「原水爆実験の阻止について」国際平和の問題からと民衆運動と国際政治の面から討議された。議長は長崎市婦人会長小林ヒロさんら四氏が交代で勤め原水爆実験によって〝死の雨〟が降り生命と健康をおびやかすことは他国の領土の完全性を侵略するものである、など今後の実験禁止が叫ばれた。このためには国連内での取決め、米、英、ソ三国間の協定、各国政府が核兵器の実験の放棄を宣言をするのが今後の対策だと打出した。

▼第三分科会（カトリックセンター）は「原子力の平和利用と原水爆の禁止」がテーマ。原子力を軍事に利用することがいかに平和を妨げるかについての意見が名古屋大教授戸沢鉄彦氏ら議長団から出され、原子力が真に平和的に利用されるようになるためには原子兵器の禁止が不可欠の条件であり、原子力平和利用の研究と原子兵器禁止の運動も固い結びつきが必要だと結論された。

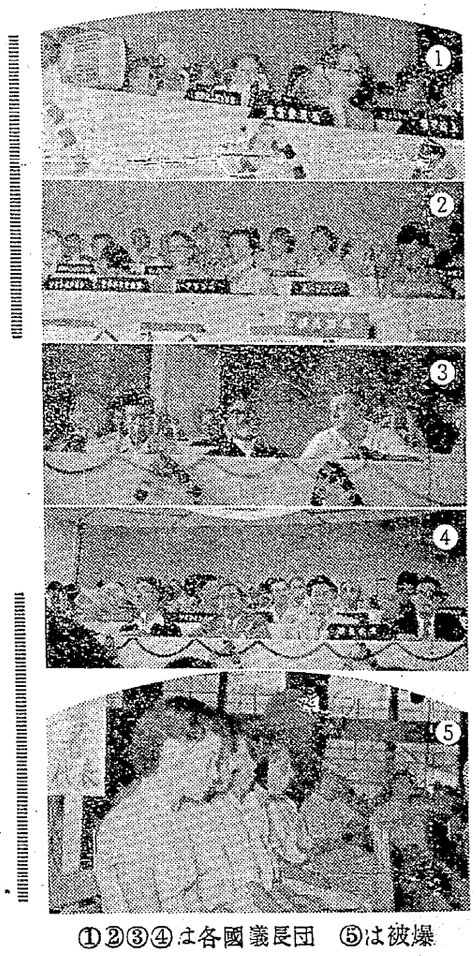
▼第四分科会（国際文化会館）はこの大会でもつとも重要視されている「原水爆被害の実相と被爆者の救援」をテーマとし議長団は広大教授で被爆者の森滝市長。(1)原爆被害者救護法の制定（政府への要求）(2)原水爆実験による一切の損害賠償（実験各政府へ要求）(3)原水爆被害の実情調査(4)被爆者組織の確立と検診治療の実施など各項目を満場一致打出した。

▼第五分科会（磨屋小講堂）は基地問題を含む平和運動について大会三日目は十一日午前九時から本会議場で開催、前日の各分科会の結論が報告されたあと一般代表の意見発表が熱心になされ、大会宣言を次のように決定発表した。

講堂）は「生活を護る」をテーマに開かれ原水爆の恐怖が続く中、青年、学生、学者、宗教家母親たちの禁止運動のあり方について熱心な訴えが出され原水爆禁止運動を実際にやつて行く上での困難や成功した具体例が話合われた。

原水爆の実験禁止

大会議長団



①②③④は各國議長団　⑤は被爆者たち

大会で訴えたい

もつと欲しい生活保障

八月九日午後三時、第二回原爆禁止世界大会は盛大に行われた。そのうだるような真昼間、長崎大学医学部の緑島内科一号室は入院患者十人余りがひつそりとベッドに横たわつている。その中の一人原爆患者深田久市さんは、三人の子供と一緒に十一年間の苦しい生活と、世界大会に出席出来ない原爆被害者の声を次のように語つた。

広島で被爆した深田さんが白血病と診断されたのは昭和二十二年それ以来絶対安静をいゝわたされ親子六人の苦しい病いと生活の闘いが始まつた。二十二年までは練早の病院に、それ以後は大学病院に入院して今日なお何時よくなるかもわからない。一時は本当にあらゆる人をうらんだ。自分の家も追われ多くの子供をかゝえて一家心中を考えたこともあるという。子供たちから「ヒモジイ」という言葉をきく時、また地金を売る話をしているのを聞くとき、深田さんの胸はいたんだ。深田さんに輸血するため奥さんは貧血で働くことも出来ない。現在深田さん一家は生活保護法によつて暮しているけれども親子六人の生活を支えるには余りにも少い。食べる事の外にせめて子供にシャツの一枚も、クツの一足でも買つてやれるような援助があつたら、何よりも生活の保障をというのが一番の願いだ白血病には未だ薬がない。今までどうにか生きのびていても、いつ死んでしまうかわからない。前途は全くくらい。たゞ今中学生の子供たちが大きくなるのが唯一の希望だ。その日まではどうにか生きていたい。子供たちがオイシそうに御飯をたべるのを見るとき、安らかな寝顔を見るとき、それが深田のさんの病気にとつて何よりの薬になる。

「今年のお盆には親子そろつて精霊流しが見たい。そんなのを見るのは縁起が悪い。といわれたが、長崎に来て十一年。私は一家でたのしくあの有名なお盆の祭りを眺めています。」

そして今度の世界大会について「私も世界大会に行つて皆さんに訴えたい。けれども、今おれては何にもならないと思つて病床に横たわつています。私たちの同胞を殺したこの原子力が本当に平和のために利用されるような日が早く来るように」と……

原爆と親孝行

末川　秋雄

十一年前の八月六日私は両親を殺された。八月六日を迎える度ごとに胸をえぐりむしられる思いです。

両親がなくなつた頃は純心であつたが、この十一年間社会から見はなされ、この純心さを早くねじつた。現在はどうする事も出来ない殺された両親に痛んで貰うことは、せめて長崎大会に出席し、原水爆禁止・平和を成功させる時です。

この原水爆が地球上で使用されなくなつた時親孝行ができるように思う。

（広島子供を守る会青年部）

〝自分の理想として〟

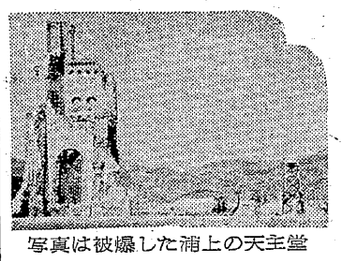
大浦天主堂の堂守語る

その日、原爆のため家族の四人をうしない、今淋しい一人身で大浦天主堂の堂守をしている一人の男の人がいる。希望によつて名前は秘すが年令は七十才ぐらいと見える白髪の好老人。

当時は教職にあつたが、学徒動員のため学徒と一緒に地方へ出かけていたのがさいわいして、この人だけが助かつたが、記者らが天主堂を参観していると、自分からすすんで「私も原爆で家族を四人も失いましたよ」と話しかけて来た。同氏はおよそ次のように語つた。

私が自分のうちに帰ることができたのは、原爆が落ちた日の翌日の午後四時頃でした。私の家は当時、今の平和祈願塔のちよつと上ほどにありましたが、帰つて見ると、あたり一めんカワラのかけらだらけで家はなく、四人の家族は黒こげになつていました。

第一道という道が馬や人間の黒こげの死体で埋まつていたしそれも走つて逃げるままの姿で（かつこうをして見せながら語る）黒こげになつているのです。防空壕にはまた逃げてギユーギユー押しこまれたまま人間が立つて死んでいる。そんなのを見ても涙は出ませんでしたよ。当時はまだ戦時中だつたので、とかくこの事態から一日も早く復興しなければという心が動きましてね。私の教えていた子も、次々に死んでいく。もちろん涙は出ませんよ。よし、もう自分はこの理想をもつたまま死んでいつた子供たちのための仕事をそう決心して、ここに働くようになりましたが、原爆ぐらい残虐な武器はないですよどんなことがあつても禁止すべきです。



写真は被爆した浦上の天主堂

平和の大合唱

大会第三日、本会議が休憩になつた正午すぎ、広島合唱団の村中好穂氏が、東高校正門近くの木かげで、アコーデオンをひきながら、被害者の歌「悲しみに苦しみに」を歌つていると、大会参加の青年男女が三々五々と集まり、いつの間にか百数十人をこえる大合唱となり、平和の歌声がしばし会場のすみずみにひびきわたつた。

この歌詞は、広島の被爆者阿部静子さんが、今年の四月、国会請願のため上京した帰途、汽車の中で作つたもので、村中氏の作曲。

人類の尊い大会だ

—モニカ・フエルトン女史—

親愛なる皆さん、全ての外国参加者を代表して偉大なる大会で挨拶することを喜びます。世界中の多くの人々が政治、宗教の異る国から来ましたが、私たち代表団との間、そして皆さんと統一した考えをもつて来ました。私は長崎、広島の人々に心からの同情を表明します。世界の人々に代つて表明します。しかし、これからの三日間で私たちは同情以上のことをなしとげたい。この大会は人類にとつて尊い、偉大なる役割を果すと思う。この大会と私たちの仕事を通じて核兵器の実験をやめさせることができるでしよう。そしてこの世界から爆弾の恐怖をなくすことができるでしよう。この目的のために皆さんと働くことができることを喜びます。最後に全ての日本人の人々が人類の自由の闘いに示された皆さんの力に感謝します

（国際民婦連副会長—英—）

恐しい遺伝をもつ

—ピカール教授—

みなさん！　私はこの原水爆に反対する大会の議事日程にある諸問題の討議について、心にとめておいて貰いたい科学的な事実についてのべる。それは、つぎの三つの主要題目に分れる。(1)核兵器の性質 (2)核兵器爆発直後と、時がたつてから後の被害について (3)核兵器の技術的管理のための諸問題。

【A】（一）さまざまな原子兵器について、現在までに使用、実験されたものは、つぎの三つ。(1)ウラニユーム二三五…広島と長崎で投下された通常兵器（ニトロ・グリセリン、TNT）と比較すれば、一発で二万トンのTNTに相当する。(2)太陽で起つているものと同じ性質のもの、高温が必要で一九三六年以来分つていたが、やつと最近実際に行われた。(3)核の分裂、融合、再分裂によるもの…これは天然ウランと同じように、数千トンのTNT爆弾に相当する

（二）原子兵器の被害。使用の仕方で異る。これがいかに大きい被害をもたらすかは、十一年前の一発の原子爆弾を思いだすだけで十分であろう。現在はあの原爆より千倍も強力である。

【B】原子兵器と水素爆弾は、破壊するということでは同じであるが、戦争兵器ということで、ゴマカシてはならぬ。

【C】人類の将来に脅威を与える相当期間後の被害。(1)これはすべての国に原子兵器を禁止させることが必要である。(2)すぐに死亡しないにせよ、放射能に直接さらされる被害は大きい。死の灰を直接かぶるのは、爆発地点から数百キロに及ぶ。ビキニ、マーシャル群島等、そうであつた。だから、遠くにいても安全ではない。種々の間接的なすじ道を通つて、世界中のあらゆる物におそいかゝる。遠い子孫にまで被害を及ぼそう。大量の放射性物質は、数カ月ないし数年にわたつて、大気中に拡大し、放射水滴をたかめる。一九五四年三月、ビキニで数百トンの物質が空中にハネ上げられ、放射性の物質となつて落ちてきた。

アメリカ六〇回、ソ連二二回、イギリス五回と、広島及び長崎の爆発が行われている。

ガン細胞と性細胞が、放射性物質の量がふえると破壊される。弱いものでも、染色体が変色する。多くの世代を経て子孫に突然変異のギセイ者—メクラ、白痴、シラコ……などのでる恐れがある。異常な出産、死亡などが昔からあつたのは、天然放射能のためである放射能の水滴を引上げ、突然変異をおこすことは許されない。世界科学者連盟は、原水爆禁止に反対する国には、「流産、死産、道徳的不具などは、すべてわが国政府の原水爆実験のためである……」という声明に署名する必要がある……と、パンフレットで述べている。

（世界科学者連盟代表）

氣付いた事をその時に行えば　何時も間に合うのである

しかし今日に到るもなお国連軍縮委員会は、軍縮と原水爆実験をふくむ核兵器に関するなんらの決議も行うにいたつておりません。そのため原水爆実験は、人類全体に、かかわる深刻な脅威にもかかわらず依然として続けられています。

私たちは世界のすべての国民、なかでもアジア十億の諸国民に訴え実験禁止の実現を直ちにかちとらなければなりません。

原子力の平和的利用は原水爆の禁止が実現してこそはじめて人類のしあわせに役立つことができます。このためには科学者と一般大衆の協力がいますぐ必要です。今日すばらしく発展しているわたしたちの原水爆禁止運動を更に前進させるためには人類の平和な未来をつくりあげたいという強いねがいをいだいている他のすべての諸団体と今までよりも一層固く団結して活動しなければなりません。

日本国民を一つにむすんだこの活動は、日本の中央、地方の公私諸団体に影響を与えているだけでなく、世界のすみずみに力強い影響を与えています。

わたくしたちの運動は被爆者の苦しみは今もなおつゞいており、それは今後幾世代もつゞきます。

広島と長崎の被爆者は世界中ではじめての原爆犠牲者です。

被爆者の救援は、国内的国際的救援活動を通して、また原水爆の禁止と国外軍事基地の撤廃に関する協定を結ぶ事によつてのみ成功でき、これこそが総ての人がのぞんでいるところです。

すべての平和運動はこれらの目的をめざして急速に発展しています。日本では、原水爆基地を撤廃せよ！生活を破壊されている沖ナワの同胞を救え！という要求が力強く発展しています。

この世界大会に参加してわたしたち代表は、この目的を貫徹するため、世界のすべての国民と協力して奮闘することをここに誓います。

一九五六年八月十一日　長崎において

第二回　原水爆禁止世界大会

もつと團結を！

望月　喜久雄

世界大会と銘うつて全世界より参加された平和愛好者の姿はまことに壮観である。

政治的宗教的にそれぞれ異つた立場にあるこれらの代表者がただ原水爆禁止という一点に集約されて全人類のためにその平和という永遠の幸福のために念願されて参加された熱意に心から敬意を表するものである。

ただ私は国内の宗教家の中の一部のもののみの参加を淋しく思う各種仏教、キリスト教、また霊友会や創価学会、PL教団等々新興宗教をふくめて全宗教家が一点に向つて教義を越えて団結されることが望ましい。

（山梨県農民総連合書記長）

壮観だつた代表歓迎大会

十一年前の八月九日午前十一時二分運命の原子爆弾は一瞬にして長崎を焦野原と化し、人類史最大の惨事を起した。

第二回原水爆禁止世界大会を迎えた長崎は〝浦上をして世界最後の原子野たらしめよ〟と叫ぶ三十万長崎市民の悲願と決意をこめて、平和を告げるきようのアンゼラスの鐘はひときわ強く長い。

九日、午後七時より、全長崎市民による、原水爆禁止世界大会に出席した、内外国の代表歓迎大会が三鉱のオブザーバー団がキャンプを組んでいる、長崎競輪場で行われた。この大会では長崎情緒ゆたかなジヤ踊りや、盆踊りも披露され内外国の代表を喜ばせた。